今の自分

太宰府高校三年
和仁ひかり

「やっぱり行きたい」

その気持ちは中学二年生の時からずっとあった。今、日中関係や中国のニュースを見るとあまりいいことは聞かない。だが、本当の中国を知ることは自分の目で見て体験することだと思った。私は、このボランティアで人生初めての沙漠へと足を踏み入れた。立っているだけで足をさらさらとした砂に持って行かれ、山吹色の砂からなる山は風によってかたちを変えていく姿は自然が生きていることを肌で感じさせてくれた。

植林作業は思っていた以上に辛く、掘った穴には、砂が落ちてくる。そんな砂漠にも、植林ボランティアによって成長したポプラの木が立ち並んでいる。夜には星が落ちてきそうなほどの満天の星空のもと、民家訪問に行った。日本とは違い、冬はマイナス二十度にもなる土地にコンクリートの家が建っている

のである。中国の中でも北京のような都会は生活が安定しているが、地方はまだまだ生活の差がある。私は、高校で芸術の勉強をしているが、絵を通して環境問題を題材にして作品制作をすることもあるが、やはり実際に体験したことを自分で考え作品にし伝えていけるようになりたい。またこのボランティアに行き、自分たちの植えたポプラの木が成長する姿を見たい。

今は、素晴らしい体験ができたこととお世話になった方々への感謝の気持ちでいっぱいです。